

## 「ボーイング787ドリームライナー」が初試験飛行に成功

ボーイング社が国際共同開発を進めている次世代中型機「787ドリームライナー」(以下、「787」)が現地時間の2009年12月15日、ワシントン州で初試験飛行に成功した。「787」はシアトル市近郊のボーイング社エバレット工場に隣接するペインフィールドを離陸し、約3時間後、シアトル市のボーイングフィールドに着陸した。「787」は最新テクノロジーの採用により、同サイズの航空機と比べて燃費効率が20%向上し、かつ、広い座席や大きな窓、やわらかい照明など空の旅の快適さを徹底追求した“夢の旅客機”である。

川崎重工は、「787」の国際共同開発にパー



トナー企業として当初から参画し、前部胴体、主脚格納庫および主翼固定後縁という重要部位の開発・製造を担当している。中でも前部

胴体は、複合材の自動積層による継ぎ目なしの一体構造として製作するという、大型航空機では前例のない画期的な方法で行なわれている。



## 2012年APECサミット会場(ロシア)向けガスタービン発電設備を連続受注

川崎重工は、2012年にロシア・ウラジオストクのルースキー島で開催予定のAPECサミット会場向けに、双日(株)を主契約社としてロシアの極東電力から「GPB70」型ガスタービン発電設備の1・2号機を受注した。本発電設備は、川崎重工が自社開発した7,000kWクラスのガスタービン「M7A-02」を搭載している。なお本件は、川崎重工のロシア向けガスタービン発電設備の初受注である。

本プロジェクトは、APECサミット会場に電力と熱を供給するため、ガスタービン発電設備および温水ボイラで構成するコージェネレーション

発電設備を建設するもの。ガスタービン発電設備から排出される燃焼ガスを、温水供給に利用することにより総合熱効率は約80%に達し、地球温暖化防止の一助になるものと期待されている。

今回受注した1,2号機に加え、3号機および4号機の発電設備も、川崎重工への発注が内定している。さらに、今回の契約には3台の追加発注オプションがついており、2010年度予算による追加発注が予定されている。

## 輸送ヘリコプター「CH-47」のライセンス締結25周年記念式典を挙

川崎重工は、2009年10月19～20日、自衛隊の輸送ヘリコプター「CH-47」ライセンス締結25周年記念式典を東京本社、および岐阜工場で行なった。式典には、米国ボーイング社、伊藤忠商事(株)などの関係者、川崎重工からは元山近思・航空宇宙カンパニープレジデント、村山滋・同バイスプレジデントなど多数が参加。記念品の交換や記念ボードへの署名などが行なわれて盛会であった。

川崎重工は1984年、ボーイング社とライセンス契約を締結して以来、2009年3月までに陸上自衛隊へ56機、航空自衛隊へ28機、合

計84機の「CH-47」を防衛省に納入した。「CH-47」は近年、新潟県中越沖地震の災害救助やスマトラ沖地震の緊急援助などにも派遣されて活躍した。

今年度契約の機体からは、新型エンジンおよび空輸容易化キットなど新規装備を搭載した能力向上型として製造を継続しており、その活躍の場がますます広がることが期待されている。



## 川崎重工グループの3社を合併

川崎重工は、2010年10月1日(予定)に、(株)川崎造船、(株)カワサキプレジジョンマシナリ、カワサキプラントシステムズ(株)を吸収合併することを決定した。

川崎重工が2007年に制定した経営理念に掲げている「広範な領域における高度な技術

力によって社会、地球環境の未来に資する新たな価値創造」のためには、既成製品の革新的高度化と新分野での新製品開発が必要であり、グループ全体の知的資産の効率的で迅速な融合と活用が不可欠である。

そこで、川崎重工は3社を本体へ再統合し、

別会社であることによって生ずる制約を取り払い、各々が持つ技術的知見、人材などをグループとして最大限に有効活用することを決断したものである。

## 新開発の大型ばら積み運搬船「CAPE CANARY」を引き渡し

川崎造船は、坂出工場において、「K」LINE BULK SHIPPING(UK) LIMITED(ケイライン バルク SHIPPING(ユーケー) リミテッド)向け大型ばら積み運搬船「CAPE CANARY(ケープ キャンナリー)」を引き渡した。

本船は、川崎造船が新たに開発した180型ばら積み運搬船の第1番船で、フランスのダンケルク港に入港可能な船型として最大級の積載能力を有している。本船は、ばら積み運搬船の船体強度に関する新規則(共通構造規則:CSR)を適用し、安全性を向上させた。また、省燃費型ディーゼル主機関や高効率タイプのプロペラに加え川崎造船が開発したコントラフィン付きセミダクトや川崎フィン付きラダーバルブな

ど最新の技術を採用し、推進性能を向上させることにより燃料消費量を低減させている。さらに、バラストタンクの腐食防止として定められた新塗装基準(PSPC)を適用し、塗装の高品質化を達成した。

### ■主要目

全長: 292m  
幅(型): 45m



深さ(型): 24.7m  
総トン数: 9万3,235t  
載貨重量トン数: 18万2,577t  
主機関: 川崎-MAN B&W 6S70MC-C Mk7×1基  
連続最大出力1万7,780kW  
×87回転/分  
航海速度: 約15.3ノット

## ブラジルで二輪車生産工場の稼働を開始

川崎重工のブラジル現地法人Kawasaki Motores do Brasil Ltda.(KMB)が2009年

10月7日、アマゾナス州マナウス市で二輪車生産工場の開所式を行ない、稼働を開始した。



新工場の敷地面積は約1万3,000m<sup>2</sup>で年間2万5,000台の生産能力を持ち、KMBは、スポーツモデル「Z750」、「Ninja 250R」の2機種の生産を開始し、順次、生産機種を拡大していく方針である。

ブラジルにおける200cc以上の二輪車市場は欧米や日本に次ぐ規模を誇っており、今後も順調に拡大していくものと見込まれている。

KMBは、2008年10月に完成車輸入による二輪車の販売を開始し、現地生産分を合わせて2010年には7,000台の販売を見込んでいる。

## 中部電力から国内最大級の地上式LNGタンク2基を受注

川崎重工は、中部電力(株)から川越火力発電所(三重県川越町)向けLNGタンク(機械工事)を2基受注した。受注したタンクは、地上プレストレストコンクリート(PC)式LNGタンク(容量:18万KL)で、地上式LNGタンクとしては国内最大級である。

川越火力発電所(総出力:480.2万kW)は、世界最大級のLNG火力発電所として運転中で、現在、容量12万KLのLNGタンクを4基有している。今回受注したLNGタンク2基の増設により、中部電力はLNG調達の実用性・柔軟性の向上を図ることができる。

### ■主要目

形式: 地上PC式LNGタンク  
容量: 18万KL  
最低使用温度: -164℃  
内槽内径: 約80m  
貯槽高さ: 約55m

## 「ギガセル」が環境省の「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞

川崎重工は、大容量・密閉型のニッケル水素電池「ギガセル」の高い省エネルギー効果が評価され、環境省の「平成21年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」(技術開発・製品化部門)を受賞した。

「ギガセル」は、大型化が困難とされていたニッケル水素電池の大型化・密閉化に成功したもので、その革新的な構造により、大電力を高効率で充放電でき、取り扱いが容易で安全性に優れている。また、有害物質などを一切使用せず、溶接レス構造にしてリサイクル性を高めた地球にやさしい電池である。

適用例のひとつが鉄道車両への搭載。車

両がブレーキをかけたときに発生する回生電力を蓄電し、加速時に蓄電した電力を再利用することで電力使用量の低減が図れる。川崎重工が開発した次世代型低床式路面電車「SWIMO」は、ギガセル搭載により30～50%の省エネを達成した。ほかにも各種大型移動体の動力源などに適用することで、省エネ・CO<sub>2</sub>削減を目指している。

さらに、「ギガセル」は鉄道変電所の地上蓄電設備としても利用できる。地下鉄路線での実証実験では、実験に当たった変電所の電力使用量および契約電力量の大幅な削減(20%減)に寄与することが確認された。



※「ギガセル」、「SWIMO」は川崎重工の登録商標です。